

令和7年度（R7年4月～R8年3月） 学 校 評 価

◇ 評価点は、Ⅰ～Ⅺの 카테고리ごと各項目を、〔 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切〕と採点し、その平均点として表したものである。各 카테고리の点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

카테고리・項目数	自己評価	学校関係者評価
	評価点〔 3.8 〕	評価点〔 3.8 〕
Ⅰ 教育理念・教育目的 (5項目)	教育理念、目的、目標、人材育成像、特色等webで公開、学生には授業概要で周知して初回授業時に適宜説明、保護者には入学時に説明を行っている。 今後も保護者アンケートを実施して教育理念等を周知する機会とし、保護者の期待や要望などの情報収集を行っていく。入学時の保護者を交えたオリエンテーションで、ディプロマポリシーの周知を図る。	自己評価の内容を承認
	評価点〔 3.9 〕	評価点〔 3.9 〕
Ⅱ 学校運営 (8項目)	教育活動は規定に基づいてホームページやInsutagramにて適切に情報を公開している。成績管理システムを活用した時間割作成や証明書の電子申請、Web出願を実施し業務の効率化を図った。会議や委員会の規定が改訂されていないものがある。 学内管理システム等を活用した事務効率の向上、学生指導に効果的に活用していく。会議や委員会の規定の見直し、整備を行っていく。	自己評価の内容を承認
	評価点〔 3.8 〕	評価点〔 3.8 〕
Ⅲ 教育活動 (14項目)	教育課程の体制は全学年新カリキュラム2年目となり、昨年度の評価を活かし、充実した内容となっている。令和7年度で3人の教員が退職し、3人の新採教員が採用された。2人が養成講習を受講、育産休が2人と教員の確保が課題である。養成講習未受講の教員が多く、計画的な受講により教育の向上を図っていく必要がある。 教員の能力開発・向上に向けた研修、内部の教育体制の整備と充実を目指していく。	退職者の離職理由の分析と対策が必要。
	評価点〔 3.0 〕	評価点〔 3.0 〕
Ⅳ 学校成果 (5項目)	国家試験は2人が不合格となり、合格率は96.5%であった。教育課程の見直しと国試対策の見直しが必要である。退学者は3人、原級留置者は1年生5人、2年生8人、3年生3人であるが、体調不良、単位未習得、提出物の不正行為が主な理由となっており、学生の倫理観が関われ事案、精神的不調を抱える事案があった。新カリキュラムとなり卒業後の評価ができていない。 学則等の取り決めの意味から丁寧に説明を行う。スクールカウンセリングの継続、タイムリーな学生相談の対応、就職病院へのアンケートの実施を行っていく。	自己評価の内容を承認
	評価点〔 3.8 〕	評価点〔 3.8 〕
Ⅴ 学生支援 (9項目)	学生の内面を把握するツールとしてSKK心理テストを導入している。クラス制として担任、副担任を置くことで、学生個々の多岐にわたる個別の対応ができる体制を取っている。進路に関しては進路主任が中心となり、クラス担任と連携してキャリア支援を行っている。健康管理は保健環境委員が中心となり、学校医と連携しながら行っているほか、スクールカウンセリングを月4回の実施し、カウンセラーと連携を図っている。 退学、原級留置者を減少させるため、指導、カウンセリングの継続、SKK心理テストの結果も活用していく。	自己評価の内容を承認
	評価点〔 4.0 〕	評価点〔 4.0 〕
Ⅵ 教育環境 (3項目)	施設・設備・耐震性等の問題は無い。実習施設は拡大している。病院説明会を11月に実施し、市内病院のほか湖西病院も交えて開催している。校内Wi-Fiの整備により電子教科書の導入などICT環境は整っている。年2回の防災訓練の実施、実習場所を含めた災害対応を学生、職員に周知している。 電子媒体をさらに利用できるように教員研修を検討する。また、海岸に近い実習施設については、避難場所・経路について確認する。	自己評価の内容を承認
	評価点〔 4.0 〕	評価点〔 4.0 〕
Ⅶ 学生の受け入れ募集 (3項目)	高校訪問や高校の依頼によるキャリア教育の出張講義を積極的に実施した。新カリキュラムになり教育方針をわかりやすく伝えるためパンフレットを更新した。高校訪問の際は当校の魅力について丁寧に説明し、進路ガイダンスには積極的に参加していく。またホームページやSNSによる情報発信を充実し、学校の魅力を定期的に発信していく。	学生確保のための取り組みを考えなければならない。学校祭や学校説明会は学校のPRになる。その際に病院見学を取り入れるなど考えてはどうか。
	評価点〔 4.0 〕	評価点〔 4.0 〕
Ⅷ 財務 (4項目)	公立であり財務基盤は安定しており、会計監査も行われている。令和5年度に「湖西市枠」を新設したが実績がない。 今後は社会情勢に応じて授業料の妥当性を検討していく。	自己評価の内容を承認

IX 法令等の遵守 (4項目)	評価点〔4.0〕	評価点〔4.0〕
	「個人情報保護管理規程」の策定、学生に配布する「臨地実習要綱」により実習記録の取り扱いを周知、個人情報の掲載には同意書にて同意のあった者のみ掲載している。職員は「浜松市個人情報適正管理に関する要綱」に基づき実施される研修に参加している。 専任教員研修未受講の教員の計画的な受講を進めていく。	自己評価の内容を承認
X 社会貢献・地域貢献 (3項目)	評価点〔4.0〕	評価点〔4.0〕
	9、2月の浜松市主催の医療救護訓練に学生ボランティアとして参加した。また、地域のゴミ置き場設置、保育園行事の講堂貸し出しを実施した。 今後も学生ボランティア、就業支援、出前講座を継続していく。	自己評価の内容を承認
XI 国際交流 (4項目)	評価点〔3.5〕	評価点〔3.5〕
	1年生の英語の時間でのウエストバージニア大学とオンラインでの交流をはじめ、5月には教員1名、3月には教員3名学生3名を受け入れ、交流を深めた。また、学生宅へのホームステイを取り入れた。新たな取り組みとしては、国際看護論の授業で、海外にルーツを持つ方々に協力いただき、多文化交流の視点について学ぶ機会を設けた。 国際交流の必要性を共通認識し社会情勢を見ながら今後でもできることを取り組んでいく。	自己評価の内容を承認

◇学校関係者評価会議 令和8年5月25日 本校会議室（学校運営会議と併せて開催）

会長	矢野 邦夫	（学校長）	事務局	
副会長	小野 奈津子	（副校長）	澤木 亜紀	（教務主任）
委員	高橋 円香	（浜松医療センター副院長兼看護部長）	片岡 聡	（事務長）
委員	松下 君代	（聖隷三方原病院看護部長）		
委員	辻村 尚子	（西山病院グループ看護部長）		
委員	内山 智夫	（浜松医療公社事務局長）		
委員	杉山 由香	（浜松市立看護専門学校後援会長・福田西病院看護部長）		
委員	杉野 俊子	（浜松市立看護専門学校非常勤英語講師）		
委員	小笠原 雅美	（浜松市健康福祉部医療担当部長）		
委員	小澤 亨史	（校医）		